

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド (為替ヘッジあり)／(為替ヘッジなし)

愛称 **ザ・ディスカバリー**

追加型投信／内外／株式

THE DISCOVERY

NISA
対象

成長投資枠

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

岡三証券

商号等：岡三証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
一般社団法人日本暗号資産等取引業協会

設定・運用は

SBI 岡三アセットマネジメント

商号等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資対象ファンドの運用は

Fidelity
INTERNATIONAL

商号等：フィデリティ投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第388号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

NEXT STAGE

新たなステージに向けて ダイナミックに成長する企業を発掘

当ファンドは、長期的に着実な資産成長が期待できるコア資産として、
世界の中型株※¹に注目し投資します。

現在、世界の第一線で活躍している企業でさえ、あまり注目されていなかった時代があり、
そこから革新的な製品やサービスを提供することで、
誰もが知る優良企業へと成長していきました。

中型株は最もダイナミックな成長を遂げる局面にある企業が多く、
株価の上昇余地が大きいと考えます。

フィデリティが長年にわたり培ってきた企業調査力により、
市場でミスプライス※²が生じている有望企業を発掘します。

※¹ 中型株とは、主要な株価指数において中型株式に分類されている銘柄およびそれと同等の時価総額の銘柄を指します。

※² ミスプライスとは、市場が企業の本来の成長力を見誤り、株価があるべき適正水準から乖離することを指します。





本資料では各ファンドを下記のように記載しています。

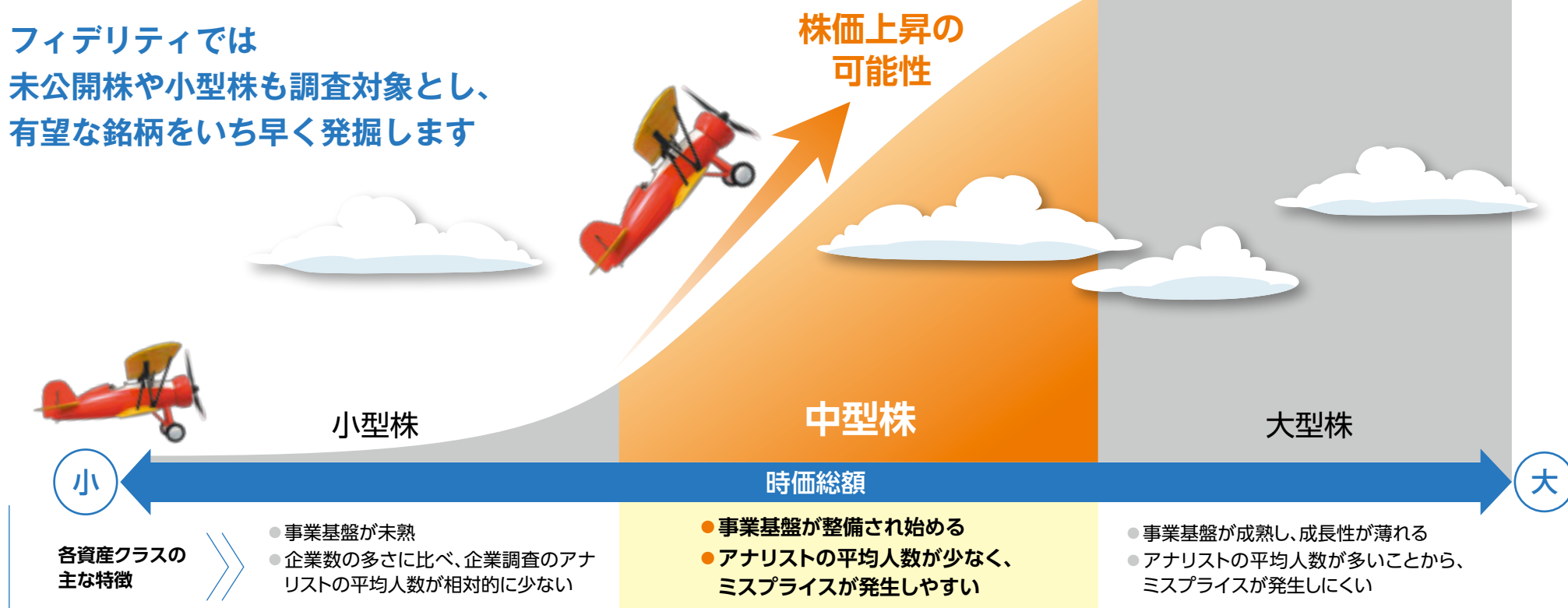
- 当ファンド：岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド(為替ヘッジあり)／(為替ヘッジなし)
- 投資対象ファンド：フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド(為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)／(為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)
- 投資対象ファンドのマザーファンド：フィデリティ・グローバル・コア株式マザーファンド
- 参考ファンド：投資対象ファンドのマザーファンドと同様の投資哲学と運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・ミッドキャップ・ストック・ファンド」
(日本での取扱いはありません。)

中型株の魅力

手つかずの多くの可能性が眠る資産クラス

中型株は、その企業を調査するアナリストが相対的に少なく、
ミsprayが発生しやすいと考えられます。
上場という離陸したばかりの不安定な時期を乗り越え、
大空に向かって成長スピードを加速させる局面にある中型株は、
長期的に株価上昇の可能性を秘めた魅力的な資産クラスといえます。

フィデリティでは
未公開株や小型株も調査対象とし、
有望な銘柄をいち早く発掘します



※上図はイメージです。

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

各企業の時価総額別の株価年率リターン

世界的な大企業の過去の株価パフォーマンスに目を向けると、中型株時代のリターンが際立って大きいことが見てとれます。将来の飛躍に対する期待が、株価を押し上げる原動力になっているといえるでしょう。

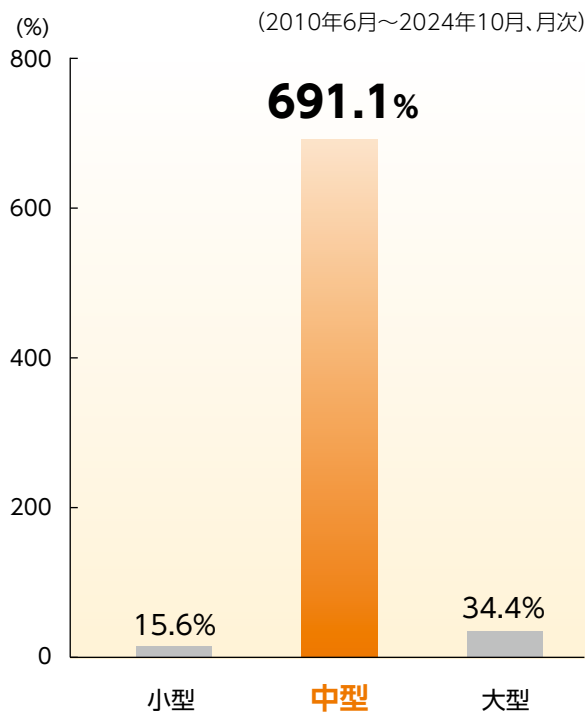
テスラ



米国



電気自動車および
クリーンエネルギー関連企業



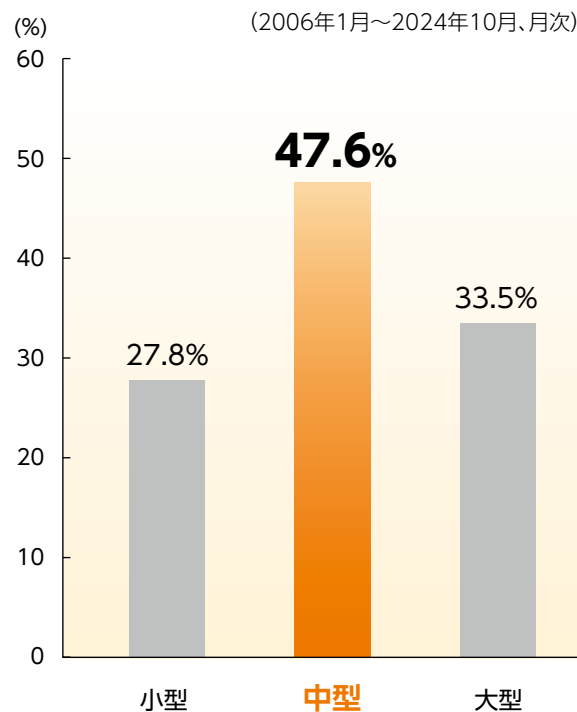
チポトレ・メキシカン・グリル



米国



ファストフード・チェーンで
メキシコ料理を提供



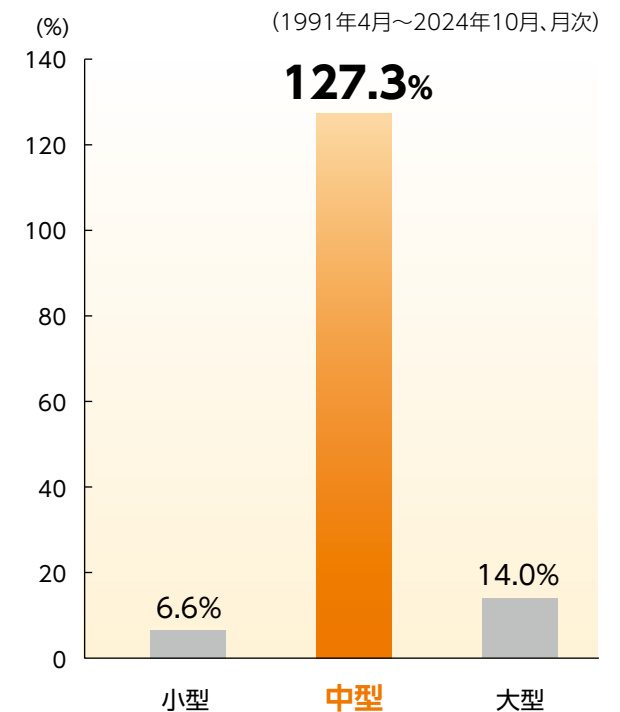
リジェネロン・ファーマシューティカルズ



米国



慢性関節リウマチや
眼疾患などの治療に使用する
バイオ医薬品を開発・製造



※時価総額が37億米ドル未満を小型、37億米ドル以上146億米ドル未満を中型、146億米ドル以上を大型として計算。各時価総額区分で半年以上継続した期間によって分類し、かつそれぞれの期間をまたいで時価総額が増減した場合、最後に中型あるいは大型になった時点から年率リターンを計測。データの開始日は取得可能なデータの最初の月末。米ドルベース、トータルリターン、月次ベース。

※上記時価総額分類は、当ファンドの中型企業の株式の定義と同一ではありません。

(出所) LSEGよりフィデリティ投信作成

上記はご参考として示したものであり、全ての銘柄がこのような傾向になるわけではありません。また、個別銘柄の推奨および組入れを示唆・保証するものではありません。

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

世界をリードするフィデリティのアクティブ運用

アクティブ型ファンドで世界最大級の運用資産、グローバルな運用体制を持つフィデリティは、徹底的なボトム・アップ・アプローチにより投資先となる銘柄を厳選しています。多数のアナリストが豊かな経験を生かし、世界の隅々から投資機会を発掘します。



ボストンの本社ビル

フィデリティの際立つ特長

- 1** 世界有数の独立系運用会社
70年以上にわたり
様々な運用戦略を提供
- 2** アクティブ運用を中心に圧倒的な存在感
約4.6兆米ドル
(約646兆円*)を運用

参考 日本の名目GDP: およそ610兆円(2024年予測値)
(出所) IMF「World Economic Outlook Database, October 2024」
- 3** 世界最大級のグローバル運用体制
910名以上の運用プロフェッショナル

グローバルな運用体制



株式アナリスト経験年数分布(2024年9月末現在)



※株式アナリスト、アソシエイトのみを集計

※四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。

* 2023年12月末現在、1米ドル=140.98円で円換算。

※運用プロフェッショナルはポートフォリオ・マネージャー、アナリスト、トレーダー、部門マネジメント等を含んだ人数。

(出所) FMR Coよりフィデリティ投信作成、2023年12月末現在

フィデリティの根幹となる徹底的な企業調査

ボトム・アップ・アプローチとは、
綿密な個別企業調査活動を行うことにより、
企業の将来の成長性や財務内容などファンダメンタルズを調査・分析し、
その結果をもとに運用する手法です。
競合企業や仕入先に加え、
業界の専門家などに対する間接的な調査も行っており、
長年にわたる徹底したプロセスと一貫性こそがフィデリティの強みです。

調査対象企業を多角的に分析

年間
約2万
にもおよぶ
企業調査レポートを作成

※企業調査レポートは、2023年に
株式アナリストが発行したレポート数

対象企業の仕入先・納入先への調査例

対象企業 医療機器 メーカーの場合

部材メーカー（仕入先）や現場の
医師（納入先）などを調査。医師
には使用感や競合製品との差異
を聞き取り。

対象企業 輸送用機器部品 メーカーの場合

素材メーカー（仕入先）や完成
車メーカー（納入先）などを調
査。完成車メーカーの動向に
よって需要の変化を把握。

企業への直接のアプローチ以外の調査例

- 業界の専門家へのインタビューを実施し、業界内の競争動向を調査
- 消費者や製品バイヤーにアンケート調査を実施し、製品・サービスの需要動向を把握
- 自然言語処理技術やAIを駆使し、ウェブやSNS上での製品・サービスの登場頻度、さらには市場心理を分析
- 大学教授や研究者と面談し、最新技術の動向を探る

調査対象企業



工場



店舗



仕入先・納入先



競合企業



研究機関



顧客

対象企業への調査例

- 会社公表資料（財務諸表等）の分析
- 決算説明会への参加
- IR部門や財務部門、経営陣等との面談
- 製造現場や販売現場の見学

対象企業の競合企業への調査例

- 競合企業が対象企業をどの程度脅威とみなしているかを調査
- 例えば、未上場時代から競合企業が対象企業を脅威とみなしていることを把握し、業界を一変させる企業であるとの判断が可能に

調査対象・方法の幅広さ

（出所）FMR Coよりフィデリティ投信作成

世界有数の運用会社への道のり

フィデリティは、1946年にエドワード・C・ジョンソン2世によって米国ボストンで設立されました。

創業以来の徹底的な企業調査を重視する文化とともに、

世界有数の運用会社への道を歩んできました。

運用業界のけん引役でありながら、新事業の開拓や最新トレンドの導入にも積極的で、

多くの「業界初」の取り組みが実現されています。



実際に使用されていたポスター。創業時から運用を手掛ける「フィデリティ・ファンド」をはじめとし、業界初の投資信託を次々と展開。2024年10月末現在、約800本の投資信託を運用しています。

運用ファンド数:

1946年 1本 ▶ 1958年 4本 ▶ 2024年 約800本



機関投資家向けビジネスを構築。退職・年金関連の分野においても様々なサービスを次々に展開しています。

1980年代



「フィデリティ・マゼラン・ファンド」は1980年代にフィデリティの旗艦ファンドとなりました。1977年から1990年まで主要マネージャーを務めたピーター・リンチは、マゼランを世界最大の株式ファンドに成長させました。

1990年代

1995

投資信託会社として、初のホームページを開設

2000年～

2008

WealthCentral®(業界初のWebベースのウェルス・マネジメント・プラットフォーム)をアドバイザー向けに提供

2018

業界初のゼロ・コスト・インデックスファンドを設定

2021

個人投資家向けサービスとして、Youth Accountsアプリ、Redditチャンネル、TikTokチャンネル、Fidelity Health®アプリを開始



1965年にフィデリティ初のコンピュータを購入し、金融取引の処理速度と効率を劇的に向上させました。

1970年代

1974

フリーダイヤル電話回線を用いた、業界初の投資信託の直接販売を開始

1978

低コストのブローカー事業への進出

1969年

外資系運用会社初の日本進出

グローバルな企業調査の先駆けとして、1969年に世界で初めて日本に進出

1982

401(k)企業年金プランを雇用主向けに提供開始

1983

フィデリティ初の投資家センターを開設

1986

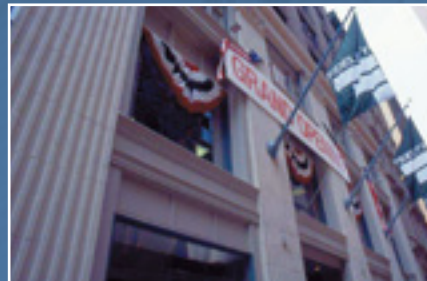
24時間ライブカスタマーサービスを開始

1989

Computerworld Smithsonian Award(IT部門)を受賞

1999

PowerStreetアプリを発表し、個人投資家向けに取引および財務管理機能を提供



1983年に開設した対面相談を行う投資家センターを皮切りに多数の支店を展開。現在も対面・電話・オンラインを組合わせたマルチチャネルによって、顧客サービスを拡充しています。

2001年

運用資産残高1兆米ドル突破

2023年

4.6兆米ドル

2023年末現在

フィデリティの 運用資産残高の推移

1946年末～2023年末

(出所)FMR Coよりフィデリティ投信作成

長期で優れた運用実績を実現

参考ファンドは、米国を中心に世界の中型株を組入れるファンドとして、1994年に米国で運用が開始されました。フィデリティの徹底した企業調査と銘柄選別により、長期で優れたパフォーマンスを達成しています。

参考ファンドと世界株式の推移(米ドルベース)

(1994年3月29日～2024年10月31日、月次)



※1994年3月29日(参考ファンドの設定日)を100として指数化。参考ファンドの設定日が月中のため設定月のみ月中から記載。

※参考ファンドは費用控除後、世界株式はMSCI World Index(配当込み) ※世界株式は参考ファンドのベンチマークではありません。市場の参考として示しています。

(出所)FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成

上記は投資対象ファンドのマザーファンドと同様の投資哲学と運用戦略に基づき運用されている参考ファンドの実績です。当ファンドの運用戦略をご理解いただくために参考情報として示したものであり、投資対象ファンドのマザーファンドおよび当ファンドの実績ではありません。

「市場の見誤り」に気づき、投資機会を捉える運用担当者

運用担当者は、約25年もの運用・調査経験を持ち、フィデリティには2008年から在籍しています。市場の一般的な見通しを常に疑い、市場が見誤っている銘柄に投資機会を見いだします。



運用担当者
ダニエル・シャーウッド氏
(Daniel Sherwood)



投資哲学

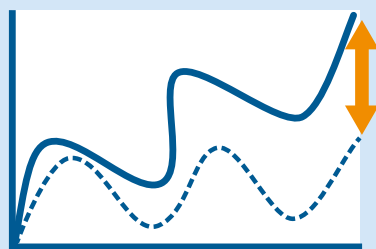


- 株価は企業の収益成長に基づいて推移するため、ファンダメンタルが改善する企業を見定めます。
- 投資機会として、市場が収益の回復局面を見誤る、収益成長の継続期間を見誤る、収益成長のポテンシャルを過小評価する、そうした局面に着目しています。
- 徹底した企業調査により、市場の見誤りに気づき、優れた銘柄を発掘することができると思っています。

(出所) FMR Coよりフィデリティ投信作成、2024年10月末現在

様々な投資機会で独自の見通しを形成

主に3つの投資機会において、将来的な収益成長力が過小評価されている銘柄を発掘し、投資します。

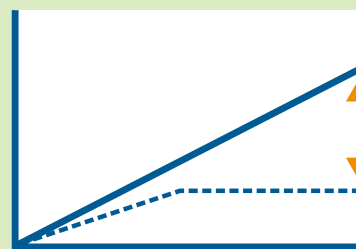
**循環的な
回復局面**をとらえる

着眼点

ビジネス／製品サイクル

発掘ポイント

手掛けるビジネスの需給バランスや本来の利益創出力に注目し、市場で過度に割安化が進む銘柄を発掘

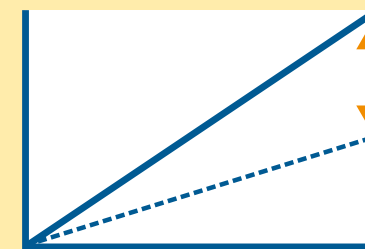
**長期にわたる
持続的な成長**をとらえる

着眼点

成長の持続性

発掘ポイント

競争力および市場シェアが高く、かつそれを長期に維持可能と見込める企業について、市場が成長の持続期間を見誤っている銘柄を発掘

**市場予想を上回る
高成長を早期に**とらえる

着眼点

成長のポテンシャル

発掘ポイント

今後ビジネスの急拡大と利益率の大幅な改善が見込める企業について、市場では成長力が十分に評価されていない銘柄を発掘

(出所) FMR Coよりフィデリティ投信作成



循環的な回復局面をとらえる

ビーコン・ルーフィング・サプライ

国・地域



米国

業種

資本財・サービス

銘柄概要

- 全米およびカナダにて住宅・商業施設向けの建築材を供給。屋根材では全米で約20%のシェアを占めるリーディングカンパニー。
- 売上の約8割が既存の建物の修繕・改築による建材需要から来ており、米国における老朽化した住宅・建物の増加が構造的な追い風。



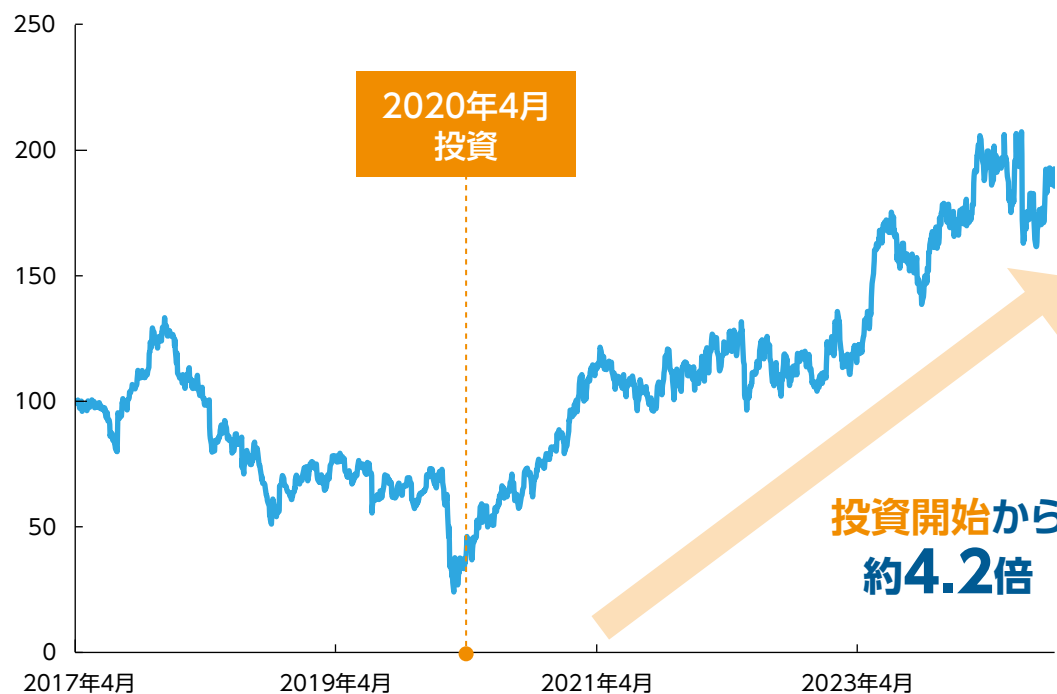
運用チームによるミsprayの着眼点

- コロナ・ショックで株価が大きく下落する中、2020年4月に投資開始。
- パンデミックの進展は不透明であったものの、事業の中核を占める屋根の修理は屋外であり、社会的距離の影響を受けづらいことに注目。新経営陣が企業買収による成長よりも、収益性向上に真摯に取り組んでいたことも評価。
- その後経済正常化による需要回復もとらえ業績伸長。2023年度は前年に続き、過去最高売上を達成。

※業種はGICS (世界産業分類基準) による分類

株価の推移

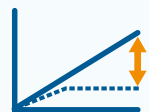
(2017年4月28日～2024年10月31日、日次)



※2017年4月28日を100として指数化。株価は配当込み、米ドルベース。投資開始時点は月末ベース。

(出所) FMR Coよりフィデリティ投信作成

上記は投資対象ファンドのマザーファンドと同様の投資哲学と運用戦略に基づき運用されている参考ファンドの実績です。当ファンドの運用戦略をご理解いただくために参考情報として示したものであり、投資対象ファンドのマザーファンドおよび当ファンドの実績ではありません。また、個別銘柄の推奨および組入れを示唆・保証するものではありません。



長期にわたる持続的な成長をとらえる

アンフェノール

国・地域



米国

業種

情報技術

銘柄概要

- 光ファイバコネクタ、アンテナ、センサー等を設計・製造・販売する電子機器メーカー。1932年に設立、全世界で100以上の拠点を持つ。
- 自動車、ブロードバンド、航空機、モバイル機器などに同社の技術・製品が供給されており、高品質で幅広い製品ラインナップが強み。



運用チームによるミsprayの着眼点

- 優れた経営陣と最適なりソース配分、高水準の利益率に着目し、同社は長期的な成長が見込めると判断し、2013年3月に投資開始。
- その後株価が上昇する中でも、市場では同社の成長余地が引き続き過小評価されていると見て、長期にわたり投資を継続。
- 2020年の半ばにポジションを一部削減、バリュエーション指標が過去最高水準まで上昇したことを受けて2021年3月に売却。

※業種はGICS (世界産業分類基準) による分類

株価の推移

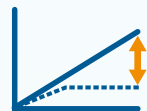
(2010年12月31日～2023年10月31日、日次)



※2010年12月31日を100として指数化。株価は配当込み、米ドルベース。投資開始・売却時点は月末ベース。

(出所) FMR Coよりフィデリティ投信作成

上記は投資対象ファンドのマザーファンドと同様の投資哲学と運用戦略に基づき運用されている参考ファンドの実績です。当ファンドの運用戦略をご理解いただくために参考情報として示したものであり、投資対象ファンドのマザーファンドおよび当ファンドの実績ではありません。また、個別銘柄の推奨および組入れを示唆・保証するものではありません。



長期にわたる持続的な成長をとらえる

ブルネロ・クチネリ

国・地域



イタリア

業種

一般消費財・サービス

銘柄概要

- ファッション事業を展開するイタリア企業。カシミア製品を中心にデザイン、着心地など品質の高さに定評があり、世界的なラグジュアリーブランドとしての地位を確立。



運用チームによるミسプライスの着眼点

- 市場は一般消費財・ブランド企業に対して、eコマースを通じたコモディティ化(=市場価値の低下)の影響を懸念。
- 一方で、同社は比類なきブランド力を背景に品質に見合った価格を維持。さらに、販売ネットワークをコントロールできる同社のビジネスモデルは、長期の利益成長を可能にすると分析。
- 同社の長期的な利益成長の持続力を、市場は見誤っていると判断。2012年10月に投資開始。

※業種はGICS(世界産業分類基準)による分類

■ 株価の推移

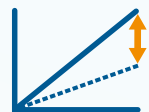
(2012年4月30日～2024年10月31日、日次)



※2012年4月30日を100として指数化。株価は配当込み、ユーロベース。投資開始時点は月末ベース。

(出所) FMR Coよりフィデリティ投信作成

上記は投資対象ファンドのマザーファンドと同様の投資哲学と運用戦略に基づき運用されている参考ファンドの実績です。当ファンドの運用戦略をご理解いただくために参考情報として示したものであり、投資対象ファンドのマザーファンドおよび当ファンドの実績ではありません。また、個別銘柄の推奨および組入れを示唆・保証するものではありません。



ダイナトレース

国・地域



米国

業種

情報技術

銘柄概要

- クラウド環境におけるソフトウェア・インテリジェンス・プラットフォームを提供するテクノロジー企業。アプリケーション性能管理を中心に、脆弱性検知やソリューション提供に強み。
- 人工知能も駆使した異常検知や緻密な分析によって、顧客のクラウド環境の安全性や効率性を大きく改善。顧客企業は3,000社を超える。



運用チームによるミspraiseの着眼点

- サブスクリプション型のビジネスにより堅実な成長を続けていることや、継続的な製品の改良で競合に対する優位性を飛躍的に向上させていることに注目。
- 市場環境の悪化から2022年に株価は大きく調整したものの、競争優位性の高さから今後の成長余地は非常に大きく、それに対して株価が過小評価された水準にあると判断。2022年9月に投資を開始。

※業種はGICS (世界産業分類基準) による分類

株価の推移

(2019年8月1日～2024年10月31日、日次)



※2019年8月1日を100として指数化。株価は配当込み、米ドルベース。投資開始時点は月末ベース。

(出所) FMR Coよりフィデリティ投信作成

上記は投資対象ファンドのマザーファンドと同様の投資哲学と運用戦略に基づき運用されている参考ファンドの実績です。当ファンドの運用戦略をご理解いただくために参考情報として示したものであり、投資対象ファンドのマザーファンドおよび当ファンドの実績ではありません。また、個別銘柄の推奨および組入れを示唆・保証するものではありません。

ポートフォリオ(1) (2024年10月末現在)

組入上位10銘柄(組入銘柄数:188)

組入上位10銘柄の比率

13.3%

銘柄	国・地域	業種	概要
パフォーマンス・フード・グループ	米国	生活必需品	全米で食品関連製品の販売・流通を手掛け、レストランや映画館など幅広いチャネルで各種製品を提供。
アメリカン・ファイナンシャル・グループ	米国	金融	法人や個人向けの損害保険等を米国で展開。
インペリアル・オイル	カナダ	エネルギー	原油および天然ガスの生産や販売などを行うカナダのエネルギー企業。
エイコム	米国	資本財・サービス	インフラ建設プロジェクトに関する計画から施設管理まで、全般的なコンサルティングサービスを提供。
ジョーンズラングラサール	米国	不動産	グローバルで商業用不動産に対する投資や調査などのサービスを提供。
トランスユニオン	米国	資本財・サービス	企業や個人のクレジットスコアを算出し、金融機関などに提供。
ウィントラスト・ファイナンシャル	米国	金融	米国で事業展開する地域に根差した商業銀行。個人や中小企業などを中心に金融サービスを提供。
M&Tバンク	米国	金融	米国やカナダで金融事業を運営。リテールを中心に手掛けつつ、機関投資家向けサービスなども展開。
アリソン・トランスミッション・ホールディングス	米国	資本財・サービス	商用車など向けの部品の設計や製造を行う。トランスミッションに強み。
シエナ	米国	情報技術	通信に関する設備やサービスなどを提供。大規模データの効率的な移送に強み。

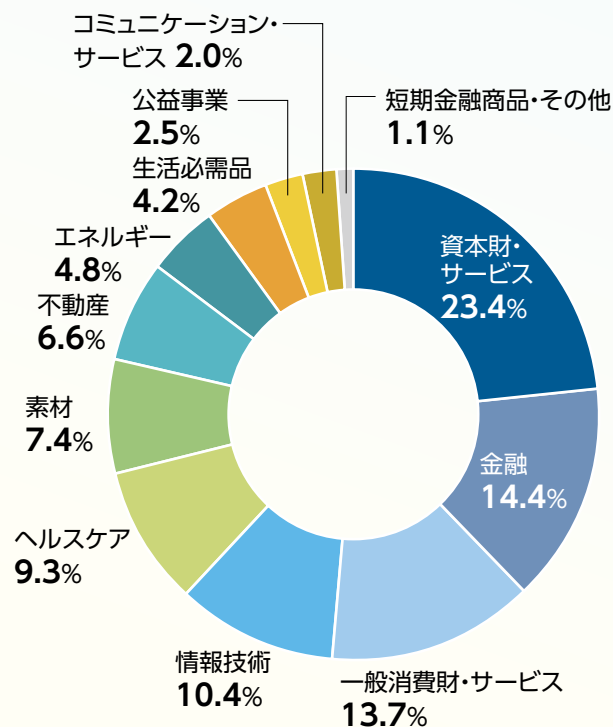
※組入上位10銘柄の比率は、投資対象ファンドのマザーファンドの純資産総額に対する比率

※国・地域は本社所在地 ※業種はGICS(世界産業分類基準)による分類

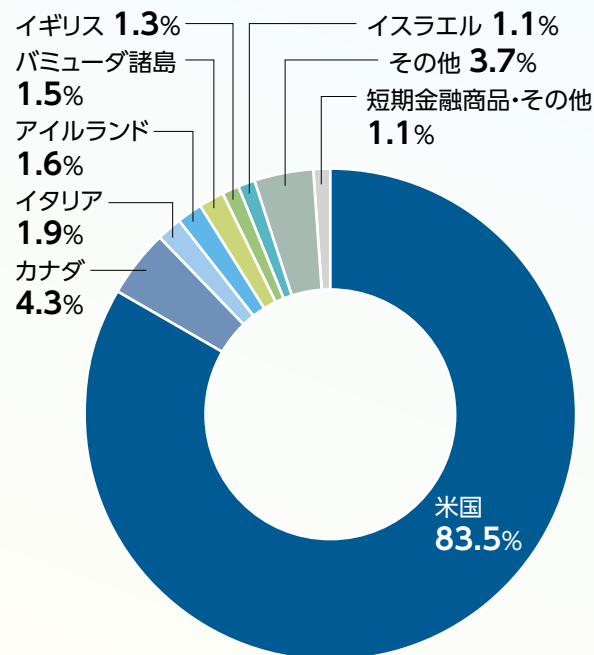
(出所) FMR Coよりフィデリティ投信作成

ポートフォリオ (2) (2024年10月末現在)

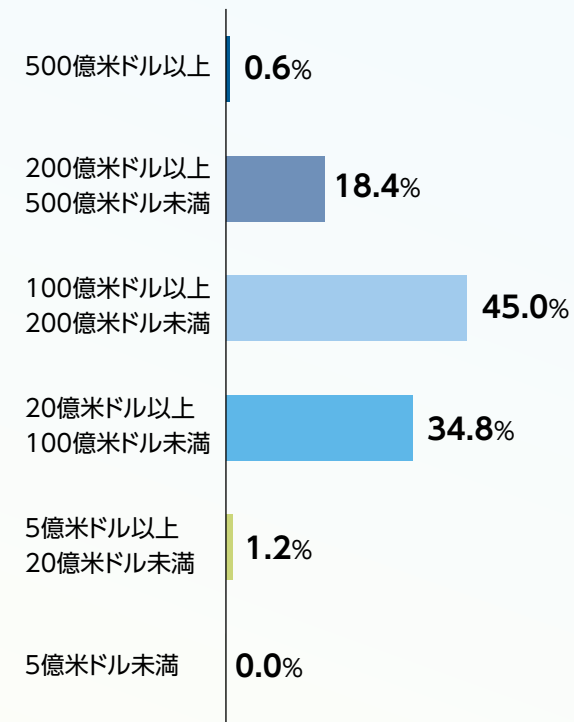
業種別構成比率



国・地域別構成比率



企業時価総額別構成比率



※各構成比率は投資対象ファンドのマザーファンドの純資産総額に対する比率
 ※各構成比率は四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。
 ※業種はGICS (世界産業分類基準) による分類
 ※国・地域は本社所在地

(出所) FMR Coよりフィデリティ投信作成

ファンドの特色(1)

1

投資信託証券への投資を通じて、主として米国を中心に世界の取引所に上場されている中型企業の株式*（これに準ずるものを含みます。）等に投資します。

* 中型企業の株式とは、主要な株価指数において中型株式に分類されている銘柄およびそれと同等の時価総額の銘柄をいいます。

●「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2つのファンドから選べます。



※各ファンド間でスイッチングが可能です。スイッチングの取扱いには販売会社によって異なります。詳しくは、販売会社にご確認ください。

- フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）／（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）
＜運用会社＞ フィデリティ投信株式会社 ＜投資対象とする「フィデリティ・グローバル・コア株式マザーファンド」の運用委託先＞ FIAM LLC
- マネー・インベストメント・マザーファンドⅡ ＜委託会社＞ SBI岡三アセットマネジメント株式会社

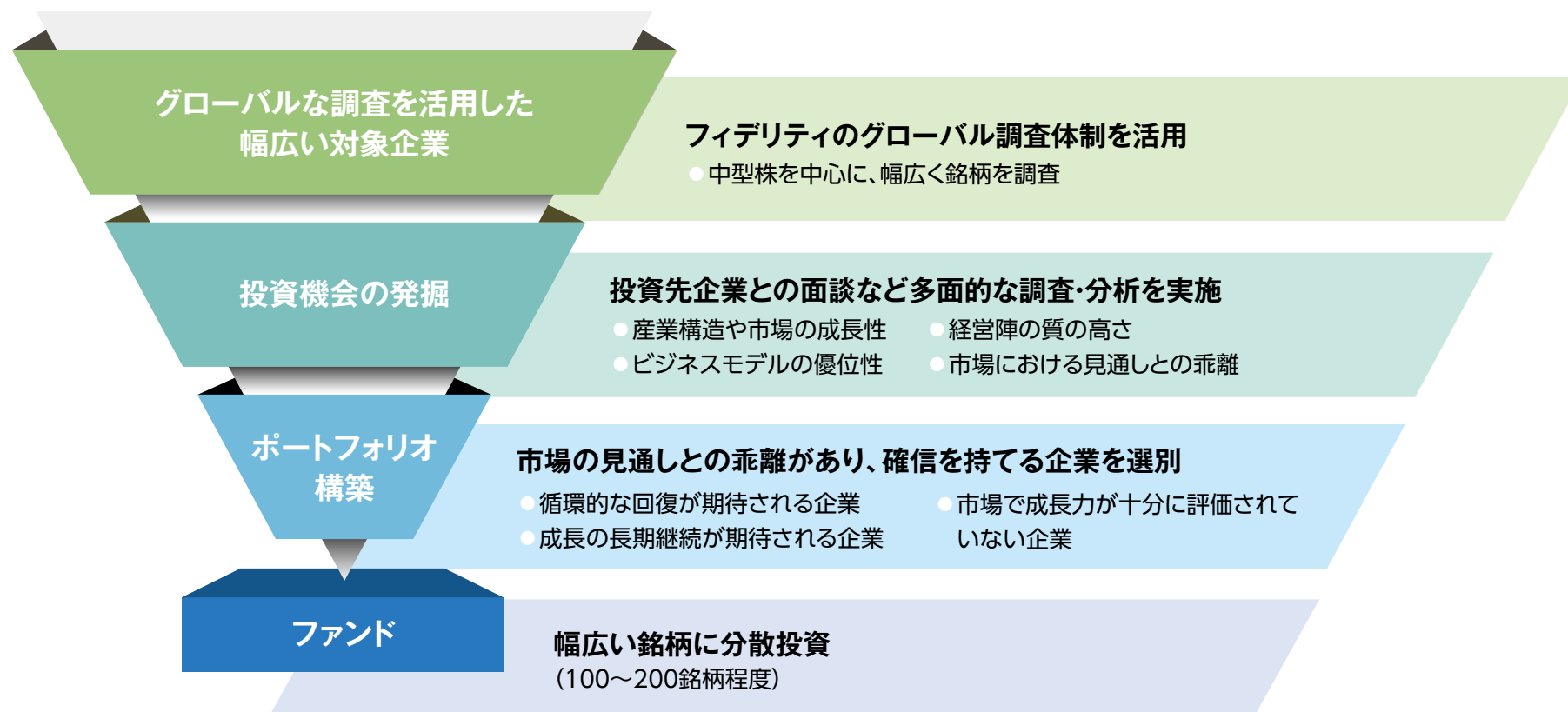
● フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）／（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）の組入比率は、高位を保つことを基本とします。

2

ポートフォリオの構築にあたっては、ボトム・アップ・アプローチに基づき銘柄を選定します。

ファンドの特色(2)

フィデリティ・グローバル・コア株式マザーファンドのポートフォリオ構築プロセス



※ポートフォリオ構築プロセスおよび銘柄数は変更になる場合があります。

フィデリティ投信株式会社は、独立系資産運用グループのフィデリティ・インターナショナルの一員です。フィデリティ・インターナショナルは、世界のお客さまに投資に関するソリューション・サービス、退職関連の専門的知見を提供しています。

FIAM LLCは、企業年金、公的年金、基金、財団、中央銀行、政府系ファンド、保険会社を含む世界各国の機関投資家を対象とした資産運用サービスに特化しています。FIAM LLCは米国を本拠地とするFMR LLCの子会社です。なお、FIAM LLC及びFMR LLCはフィデリティ・インベストメンツの一員です。

投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様に帰属します。

ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

主な変動要因

株価変動リスク	株式の価格は、発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。
為替変動リスク	<為替ヘッジあり> 外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指しますが、為替ヘッジの対象となる外貨建資産は市況動向により変動することから、為替変動リスクを完全にヘッジすることはできません。 <為替ヘッジなし> 外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。
流動性リスク	有価証券等の時価総額が小さく、または取引量が少なくなると、市況の急変、取引所の閉鎖等により、有価証券等の売買価格が通常よりも著しく不利な価格となることがあります。
信用リスク	有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となることがあります。

その他の変動要因

カントリーリスク

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり量が小さかった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。

当販売用資料で使用している指数の著作権について MSCI World IndexはMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

お申込みメモ

購 入 時	購 入 単 位	販売会社が定める単位 ◆詳しくは販売会社にご確認ください。
	購 入 価 額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換 金 時	換 金 単 位	販売会社が定める単位 ◆詳しくは販売会社にご確認ください。
	換 金 価 額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
	換 金 代 金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
そ の 他	ス イ ッ チ ン グ	各ファンド間でのスイッチングが可能です。 ◆スイッチングの取扱いは、販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にご確認ください。
	購 入・換 金 申 込 不 可 日	以下に該当する日は、購入・換金申込みの受付を行いません。 ・ニューヨークの取引所の休業日 ・翌営業日がニューヨークの取引所の休業日である日
	信 託 期 間	2045年9月27日まで(2022年9月21日設定) ◆各ファンド受益権口数が10億口を下回ることとなった場合、やむを得ない事情が発生した場合等には繰上償還となることがあります。
	決 算 日	3月および9月の各月27日(休業日の場合は翌営業日)
	収 益 分 配	年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ◆将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
	課 税 関 係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用はありません。 税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

お客様にご負担いただく費用

お客様が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%) ◆詳しくは販売会社にご確認ください。 ◇ファンドの商品説明および販売事務手続き等の対価として販売会社に支払われます。
	換金手数料	ありません。
換金時	信託財産留保額	ありません。

お客様が信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額×年率1.265%(税抜1.15%)		
		委託会社	年率0.35%(税抜)	◇委託した資金の運用の対価です。
		販売会社	年率0.78%(税抜)	◇運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
		受託会社	年率0.02%(税抜)	◇運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)の 実質的な負担	純資産総額×年率1.98%(税抜1.80%)程度 実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。 なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。		
	その他費用・ 手数料	監査費用：純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%) 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。 また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。 (監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)		

○お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

○詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

委託会社およびその他の関係法人

委託会社 [投資信託財産の設定、運用の指図等]	SBI岡三アセットマネジメント株式会社
受託会社 [投資信託財産の保管・管理等]	株式会社りそな銀行
販売会社 [購入・換金の取扱い等]	販売会社の詳細につきましては、右記の委託会社フリーダイヤルまでお問い合わせいただくか、ホームページをご参照ください。

委託会社お問合わせ先



フリーダイヤル
0120-048-214
(営業日の9:00~17:00)



ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

- 本資料は、SBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。本資料中の図表等は、各出所先(ホームページを含む)のデータを基にSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものです。記載内容、数値、図表等は、本資料作成日時点のものであり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 購入の申込みに当たっては、「投資信託説明書(交付目論見書)」及び「契約締結前交付書面」又は「目論見書補完書面」を十分にお読みいただき、投資判断は、お客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

作成：SBI岡三アセットマネジメント株式会社

